

# 国内 IGF 活動活発化チーム第 62 回会合 発言録

2025 年 5 月 19 日(月)開催

加藤： 皆さんこんにちは。それでは予定の時間になりましたので、第 62 回の国内 IGF 活動活発化チーム会議をスタートさせていただきたいと思います。まだお集まりにならない方もいらっしゃると思いますが、ご参加になればいろいろとご発言いただきたいと思います。あと今日は例によって、後半夕方 6 時から 7 時まで、第 4 回目の勉強会を開催させていただきます。ぜひ継続してご参加いただければと思います。それではアジェンダに沿って進めさせていただきますが、山崎さん少しスクロールしていただいて、まず日本政府から最近の IGF 等について、ご報告いただくという件ですが、どなたかご参加いただいておりますでしょうか？

山崎： 山崎ですけども、今のところ、総務省さんからのご参加が 1 人もいらっしゃらないので後回しにして...

加藤： そうですね、飯田さんのお名前も拝見できないので、いらっしゃらないですね、今日は珍しく。いずれご参加になればお願いするとして、まず MAG から報告ということで、加藤からご報告させていただきます。共有の画面をいただけますか。

山崎： 今共有を切りました。

加藤： はい。見えておりますでしょうか？

山崎： 今見えています。

加藤： 簡単なワードのドキュメントを提示させていただいております。MAG としては先週 5 月 13 日に日本時間の夜 18 時から MAG のリモート会議がありまして、その準備ということでいろんな準備状況の議論をいたしました。いつも MAG の会議は委員以外の方でも登録していれば参加できる部分がありまして、今回も結構たくさんの方が入っていらして、60 人近くマックスでいらっしゃったと思います。それでこのメモに書きました通りですね、簡単に申し上げますけれども、まずオスロの会議に関してノルウェー政府の MAG のコチェアの方から報告がありまして、極めて簡単でしたが、彼らとして非常に大きな関心時であるノルウェー政府の首脳がご参加になるということで、首相もご参加になることを確認したというお話がありました。それから二つ非常に重要なことを言いますと、一つは Music Night が実施しますということで、前回のサウジアラビアの会議の最後にサウジアラビアでほとんどイベントがなかったということで、コメントがあったものを受けて、毎回このいろんなイベントを企画しておりますっていう話があります。それから Day 0 の日曜日、何かソーシャルイベントを開催する予定ですよという話もありました。ノルウェー政府からは以上で、いろいろな現地でのロジとかについては、ノルウェー政府から出ている [2025 年の IGF の会議案内の Web サイト](#)を見ていただければ、ほぼいろんな情報を全て取れると思います。それに引き続いて IGF の事務局から、ノルウェーのオスロ会議関連の説明がありまして、一つはご参加になる場合は、登録の申請を早く出して欲しいと。

一応申請があったらそれをチェックして完了と登録いたしましたという案内が来ますので、まだの方です。ぜひ早めに出してくださいということで、一応6月1日までには必ず出して欲しいというお話がありました。それから、いろいろな会場での会議のスケジュール、これPDFの形で例年通り5日間にわたって、どのセッションが何時から行われるというPDFのマトリックス、これがスケジュール案という形ですけど、ほぼ最終に近いと思います。ぜひそちらの方をご覧ください。それで内容的には全て公開して、採用されたセッションも原則としてこれ全て完了でございます。それから先週の13日の段階で、3,800人以上がもう登録済みだということで4,000人近いという言い方をしてみましたけれども、日々どんどん増えてるんじゃないかというふうに思います。だから今回も、少なくとも6,000人とか7,000人とかいくのかなというふうな印象を持ちました。それから日本の方にはあまりそういうケースはないかもしれませんが、主に途上国の方々に旅費の支援等の手続きがあって、承認がされたのかどうかという質問がありましたが、それについてもそろそろ連絡が行くという感じですね。先週13日の時点から1週間程度で、申し込みがあった人にも結果連絡が行くという話がありました。今までこういう数字をあまり知らなかったんですけども、大体世界で100から120人程度はIGFとして旅費の支援というのが認められる予定だというようなお話がありました。それからこれもあまり日本の方は関係ないのかもしれないんですけども、現地に行くビザについて、いろんな国の方がビザを取れないという、そういうことを必ず指摘されるのです。今回もどうだったという話がありましたが、比較的サウジアラビアの例とかに比べてビザが取りやすいんじゃないかという話と、それからインビテーションレターが必要だったという話がよくあるんですけども、最初申し上げたIGFの登録・確認の書類、これはあなたの登録が承認されましたという紙を自分で印刷できる形になりますけれども、それを受け取っていただいたらそれがビザ申請には必要な書類になるはずだと。特に別の書類を出すつもりはないと言っていました。それからちなみにもう登録された方いるかもしれませんけれども、登録して承認されると同時に写真付きのバッジを現地で、昔は印刷した紙を入口でチェックを受けて印刷した紙を首からかける、こんなようなセキュリティのためのカードをもらうんですけども、前回4月に私、MAGでジュネーブに行ったときもそうだったんですけども、現地では印刷機を持ってなくて、そこでバッジを渡すってことをしないということがありました。皆さんは、会議への申請書を出しそれが承認されると、各自の承認というバッジのようなものが添付されてきます。それをご自分で印刷して持っていけると、現地でそのまま大丈夫です。それをいつも現地では、少なくとも今回の会議でも首にかけている必要はないので、何か言われたら見せると。ただ入口のセキュリティのところではそれをきちっと見せるので、常に携帯しているという、そういう形式になるのかなと思います。ひょっとすると結構不評だったものですから、バッジホルダーはあるかもしれませんが、前のときはそういう状況だったんで、今回私が申し込んだら、そういうバッジを印刷する形で顔写真付きのものが付けられておりましたので準備されるとよろしいかと思います。ここまでの手続き的なことでご質問はありますか。いかがですか。おいでになる方とか。山崎さんお願いします。

山崎： そのバッジですけど、印刷して持っていかなきゃいけないんですか。それともスマホか何かに入れておいて、それは...

加藤： スマホでもよかったと思います。引っ張り出せば出てくるかもしれないですけど、バーコードが付いていて、入口のゲートのところでバーコードを示すとゲートがぱっと開くってようなのが、1 日目だけはそれを手続きするんですが、2 日目からはバーコードを読み取るような感じになっていましたので、スマホで確か大丈夫だと思います。それも絶対ということはないので、(IGF 事務局からの) 連絡をもう 1 回見ていただければと思うんですが、スマホで大丈夫だったと思います。

山崎： ありがとうございます

加藤： はい、皆さん、他の方がいいでしょうか。そういう意味で登録だけ早めにされて、何日かかけて承認っていうのが来ますので、いらっしゃる予定の方は、最終的に出られなくなったっていう場合も含めて申請された方がいいと思います。あまりギリギリにならない方がいいと思います。あとよろしいでしょうか？

山崎： もう一点質問なんですけども、6 月 1 日までというのは現地参加者だけじゃなくて、遠隔参加者の場合も同様かどうか、もしご存知でしたら。

加藤： すいません。そこはそういうのが僕が聞き漏れていたのかわかりません。

山崎： 分かりました

加藤： だけど OK というので一応、何かチェックがあるというようなことを言っていましたので、MAG の間で MAG だとかいうと承認がしやすいからとか、なんかそんなことをちらっと言っていましたので、普通は現地参加の人が中心だと思いますけれども、その瞬間自動的に承認が下りるっていう手続きではなかったと思います。

山崎： そうですね。私が申し込んだときも、ちゃんと認証というかその承認プロセスが入るようなことは書いてあったと思います。

加藤： それで何日か経ってから承認というのが来ていたと思います。

山崎： はい、ありがとうございます

加藤： 特に日本からこういう人間であるということを書かれた場合に何か引かかるってことはないと思いますが、一応早めに出されると、手続きに時間がかかったり何かのミスもあり得るのでその方がいいというふうに思います。あとよろしいでしょうか。

ここまでのところ前にも申し上げた通り繰り返になりますけれども、皆さんホテルを取られるとしたら、おそらく街中で駅へのアクセスが比較的便利なところでも十分大丈夫で、会場の近くではあまりホテルの数ないんですね。だから特に(シャトル)バスが出るとかそういう計画もないので、歩いていくってということになると、市内から電車で会場のある街まで 10 分強ということですので、市内でも大丈夫かなというふうに思います。ただホテルも早めにとった方がいいような気がします。先ほど申し上げたように数千人は参加されるでしょうから、その辺のご予定を決められたらいいと思います。

それでは MAG の中でのサブスタンスって言いますとそれほど多くはないんですが、先週の MAG の会議で確認した主なことがメインセッションですね。これは、一番大きなホールで同時通訳もついて、大きなテーマを議論するメインセッション、それと同じように大きなホールではハイレベルセッション、前回この活発化会議の報告で申し上げました。このハイレベルセッションっていうのと二つがメイントラックで、それ以外は、オープニングのセッションとクロージングセッションというようなものが多くて、あと NRI のメインセッションとかそういうものが続くわけですがけれども、一番会議としては中身も濃い、良いセッション、そしてこのメインセッションというのがあります。前回ご報告した通りです。今年のメインセッションは三つのテーマをやりますということになっておりまして、これ簡単に今お示しした通りまとめております。まずメインセッション 1 がニューテクノロジーということなんですけれども、いろいろな紆余曲折もあって、メインセッションとしてニューテクノロジーを話すけれども、人権とかアクセスとかインクルージョンとか、伝統的な IGF のいろんな問題もなるべくそこを含められるように説明する、議論するんだという形になっています。他のセッションもそうですけれども、基本的に 5、6 人のスピーカーが簡単にプレゼンをして、そしてそれぞれがコメントして質疑を受けるというような形式を考えています。今回のメインセッションについてはニューテクノロジーということで、5 人のスピーカー、今ほぼもう候補が決まっておりますけれども、スピーカーからコメントがあった後、登場国から具体的にどんな最近ニューテクノロジーに関する例があるかっていうなことを示したいんだというお話をされておりました。メインセッションは三つとも、それなりにこんなストーリーでやりたいという案は MAG の間では議論が交わされております。次のセッション 2 は AI ですね。AI については PNAI が中心になってセッション内容をいろいろ議論して専門家が喋るということなんですけれども、国連の関係者に、いや OECD に加えて、企業、例えば Meta とかマイクロソフトとか OpenAI とかが候補だと言ってましたけれども、そういう企業の方も参加する、そういうセッションにしたいということでございます。それから三つ目が、今年非常に特に注目したい、IGF がどういうインパクトを持っているかという IGF のあり方の議論ですね。この三つ目のセッションの問いかけとしては、IGF が何をやってきたかとか、今後どうすべきかっていう言い方ではなくて、少しトーンを変えて、IGF はあなたにとってどういう意味を持っていますかと、将来はどんな意味を持ちますか、あなた自身が考えて欲しいっていうような、そういう問いかけの形でスピーカーが話をしますという議論がありました。もう一つは、この IGF が 7 月に WSIS+20 の会議がジュネーブで行われるんですけど、その会議とか、さらに今議論が進んでいる GDC とどう繋がるのかと、IGF が、それらの活動に対してどういう役割を持っているのかとの議論をしますと。それとマルチステークホルダーモデルと、それを実現している IGF とか NRI、Dynamic Coalition、そういうものがどういう貢献をするのか。そういう中で、過去インターネットにどう貢献して、インターネットの分断とかいろいろな問題をどうやって IGF が阻止できたか。これは IGF がどういう役割を果たしてきたかということに繋がるんですけども、そういう言い方で三つ目のセッションは問いかけをしたいということでございました。あとこのときに Policy Network、Dynamic Coalition などについて、それぞれどんな準備をしているっていう説明もありました。これも例年通りそれぞれセッションを企画しているということでございます。Carol Roach、MAG の議長が、国連の ODET (Office for Digital and Emerging

Technologies)と継続して IGF と GDC の関係について会話はしているというお話がありました。4月の会議でもそうですけれども、ODET から MAG の議論に参加したりしていますので、一応情報交換は継続しているということだと思います。私からは以上ですが、今お名前拝見したんですが、飯田様ご参加いただいていたら、確か MAG の会議にもお名前を拝見したので何か付け加えていただくこと等ございましたらお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

総務省飯田： 内山と申します。飯田が本日別件で他に対応しておりまして申し訳ございません。

加藤： そうなんですか、飯田様のお名前だったので失礼しました。それでは特に総務省様からはコメントを追加いただくことはないでしょうか？

総務省飯田： 大丈夫です。特段ございません。

加藤： はい。ありがとうございます。

山崎： データ課の宮本様にご参加のようなんですけども、データ課様から特に共有いただくことがもしおありでしたら。

加藤： そうですね、宮本さんよろしければ。

宮本： お世話になります。宮本です。ありがとうございます。特段大きなアップデートは ICANN の関係ではございませんが、6月の2週目ですかね、また次の ICANN 会議を控えておりますので適宜準備を進めておりますという状況です。簡単ではございますが以上でございます。

加藤： ありがとうございます。何か、今私が申し上げたこと等でご質問ございますでしょうか？特に大丈夫ですか？皆さん。例年よりも時間が半分の中で、いろんな準備をしている割には申し上げたら失礼ですけども、ノルウェー政府は非常に準備されてるということと、ご覧になったと思いますけど、最終的にはワークショップの数が前回 40 ほどしか選べなかったんですが、10 ほど増えて 51 か 2 になったと思いますが、それにしても会場の数が限られていて、今年はセッションの数は比較的少ないので、それぞれについて中身が濃い議論になるのかもしれませんが、そういう状況です。それではよろしいでしょうか？MAG の報告ということはこれで一旦終わらせていただきたいと思います。次にスケジュールに沿ってですけども、NRI について山崎さんをお願いしてよろしいですか？先日もあってあとは明日もございませうけれども、状況をお願いいたします。

山崎： (音量が) 小さいですか？明日ではなくて木曜日ですね。

加藤： そうですね、次は。

山崎： 4月28日、連休の谷間ですけど NRI 会議が開かれました。議題としては主にこの NRI のセッション、来月の IGF 2025 オスロで開かれる中の国別地域別 IGF、NRI と呼んでますけども、これのメインセッションに関するものがほとんどでした。これが 75 分間で開催されるということで、大枠はもうできてまして、まだタイトルとかは決まりきってないんですけど、いくつか候補が出てその中から絞るという形になっています。それでちょっとここは皆様にお詫びしなきゃいけないんですけど、この4月28日の会合後5月5日までに以下の五つの点について各 NRI の皆様に協議してタイト

ルの提案だったり候補者を出したりということをしてくださいというふうに言われていたんですけども、ちょっと間に合いませんで、これが叶いませんでした。ですからもし候補者いたねというような方がいらっしゃいましたら、大変申し訳ございません。このNRIの会議中にMAG、先ほど加藤さんが報告されたIGFのプログラム委員会的な位置づけのものですけども、ここがメインセッションを準備していて、IGFの事務局、これは国連がやってるんですけども、重複を避けるために情報提供して連携を促進するということです。ここまではメインセッションですけども、その他に三つ、NRIs Collaborative Sessionというのがあって、データとサイバーセキュリティとアクセス、この三つがありましてそれについても5月5日まで確認が求められましたけど、こちらについても間に合っておりませんで、申し訳ございません。どういうものかといいますと、細かい違いですねマルチステークホルダーのガバナンスというのがコアにあってそれに対して、WSIS+20ですとか持続可能で2030年アジェンダとかいろいろありますけども、この辺から絞り込むということです。セッションの概要としては、WSISというのは2003年、2005年にあった世界情報社会サミットですけども、これのプロセスから20年経っているということと、SDGsから10年以上が経っているということで、これまでに達成された成果と、なりの残る課題について少々焦点を当てるといえることですね専門家からの盗撮を取り上げて、包摂性開放性透明性の重要性を再確認で新技術への対応を含むガバナンスコードの適応策を探るといった内容になっております。ここにあるような質問を投げかけて議論を深めるというようなものになるということになっています。以上駆け足ですけども、私からNRIの会議の報告をいたしました。次回は5月22日今週木曜日に第5回が予定されています。もしご質問等あればお願いします。

加藤：加藤から一点補足的なことですけども、今ご説明いただいた通り、NRIとしては、一つのNRIのメインセッションで三つのCollaborative Session、この四つをやりますという形になると思うんですけども、実は三つのCollaborativeセッションはそれぞれのサイバーセキュリティとかデータといいますかAI関係のものと、それからアクセスということなんですが、メインセッションは先ほど私が申し上げた、MAGで議論していた全体の三つのメインセッションのうちの一つ、三つ目のセッション3って言われてますけど、三つ目のセッションとかぶるような内容なんですね。IGFが美味しいGDCにどういうインパクトがあって、IGFっていうのはどういう役割を持っていて、今後どういうふうに考えていくべきかっていうことなんですけど、その辺の調整っていう議論が実はMAGの方でもありました。MAGにもNRIのコーディネーターであるIGF事務局のAnjaも出ておまして、NRIとしては特色を持った地域の活動の視点から、IGFについて議論できるような、そういうことを考えているということで、その辺スピーカーも含めて調整するという形になっていると思います。その二つを見ても、今度のオスロの会議では、IGFの将来っていう問題が非常に重要な問題だということの表れだと思います。以上です。

山崎：ありがとうございます。他にご質問はございませんでしょうか？ないようでしたら加藤さんにお返しします。

加藤：ありがとうございます。これ以外、先ほどの宮本様からも6月のICANNの準備会合っていう話がありましたが、特に他にこういう会議があるとか、こういう今案件があるっていうご報告いただくようなことは皆さんございませんでしょうか？

宮本：お世話になります。総務省の宮本です。うまく関係するかどうかはあれですけども、おそらく今日ご参加されてる前村さんの方がよくご存知かとは思いますが、今ちょうどICP-2のパブリックコメントが今週末まで来週あたりまであったかと思っておりますので、ICANNの方で募集しているところですので、ひとまず情報共有だけお話しさせていただきます。以上です。

加藤：はい、ありがとうございます。

前村：宮本さん、どうもありがとうございます。ICP-2というのは、去年の年次会合、日本インターネットガバナンスフォーラム2024で谷脇さんと白畑真さんと一緒にお話させていただいたんですけども、あの時点では原則案とプリンシプル、プレドラフトプリンシプルというものが書かれている状態で、それに対してコンサルテーションをやっていたという状態だったんですね。それからコンサルテーションの結果を2月にAPNICミーティングをマレーシアのプタリンジャヤでやったんですけども、そのときに、3日間缶詰でガードドラフティングの作業をやりまして、それを4月14日にリリースしました。今宮本さんからご案内があったように、パブリックコメント、これはICANNのパブリックコメントのプロセスを使ってやっていますが、5月27日までコメントを募集いたしております。そういうふうなことで、もし何かお考えがあればぜひともお聞かせいただければと思います。ありがとうございます。

加藤：どうも宮本さん、前村さんありがとうございます。その件はそれでよろしいでしょうか？他に何かご披露いただくことございますか。どなたか。もしあればまた後で何うとして、勉強会の件について。山崎さん、今のところ次の勉強会日程は後であれですけども、まだ案件として具体的に挙がっているものが正式にはないということよろしいですね。

山崎：はいそうですね。考えてひねり出せなくはないかもしれないですし、個別に打診とかっていうのもあり得ますけれども、常時募集するという感じにして、もしここにご参加の方、もしくは今日はいらっしゃらないけれども活発化チームに参加の方で何か勉強会ネタがあるとおっしゃる方がいらっしゃれば、募集したいと思います。

加藤：はい。日程的には来週の今日と同じく同じような月曜日ですね。日本IGFの6月に向けての事前会合という位置づけで、三つセッションをやるということを計画しておりますので、それもあって次回はおそらく5月26日、IGF事前会合ですね。それもあるので、次回の勉強会っていうのは、オスロの会議が終わった後、準備でき次第っていうことになるのかなというふうに思います。ということで、ぜひこういうことを勉強会の議題にしたいというご提案がありましたら引き続きお願いしたいと思います。

それで今ちょっと触れましたので来週の 26 日のスケジュールに関して、もしよろしければ、山崎さんから今アジェンダ案を作って用意したところですので、ちょっと簡単にご説明いただいてもよろしいでしょうか？

山崎： はい今映しておりますが、IGF 2025 国内事前会合ということで、例年は IGF が 12 月とかで、10 月から 11 月にやっているものですが、今年は、IGF 自体が 6 月の 3 週目ということで早くなっていますので、日本の IGF としても早めなきゃいけないということで、時間が限られてるとということもありまして規模は縮小してやろうとしています。つい先週末ですが、ようやくセッションの内容がほぼ固まりまして、ここにリストアップできる状態になりました。全部で 3 セッションありまして、一番目は児童ポルノのブロッキングと生成 AI による CSAM、Child Sexual Abuse Material というやつですけど、要は昔、児童ポルノと言ってたやつですね。今は児童ポルノとは呼ばないんだというふうに、多分このセッションのご登壇者の何人かおっしゃると思いますけども、その規制に関してということで 75 分を予定しています。2 番目が違法オンラインカジノサイト問題についてということで、総務省の方で検討会が始まっておりますけれどもそれに関連した内容ということです。3 番目は、これ間違ってますね。WSIS+20 や GDC に向けて、IGF の役割や今後についてということで、こちらも 75 分です。これは英語で行います。質疑応答については通訳が入りますので日本語で質問いただいて結構ですが、英語のスピーチについては Zoom の翻訳字幕機能を使って表示する予定です。パネリスト、モデレーターはここに記載してある通りということで、最初の海外から参加なさるお二人についてはリモートで入られる予定となっております。こういう感じですがけれども、ご質問なりございますでしょうか？

加藤：ありがとうございます。今日山崎さんからまた改めてこのスケジュールを配信いただきまして、先ほど...

山崎： まだそこまでは。案を確認中です。

加藤： ごめんなさい。

山崎： 明日には詳細なご案内ができると思います。

加藤： 日本にとって最初の二つは今非常に関心の深いことだと思いますし、三つ目については今度のオスロの会議でも中心的な議題で、海外の方が非常にホットな情報を提供いただくというふうに理解しておりますので、ぜひオスロにいらっしゃらない方も含めて、今何が起きているのかっていうのを知っていただくために、明日もう一度スケジュールを山崎さんから送っていただいたら、ただちにぜひいろんな方に配布いただいて、ご参加を促していただいて、全てリモートで聞けますのでよろしくお願ひしたいと思います。ぜひ広く配布していただければと思います。何かこの件についてご質問やご意見ございますか。ご案内が直前になって大変申し訳ありませんが、ようやくこういう形でまとまりましたので、ぜひご支援をお願ひしたいと思います。皆さんよろしいでしょうか？明日ご案内をするということですね。

次のアジェンダの本チームの今後、これも特に今は動きはご報告することはないと思いますが、前村さん何かございますか。

前村： その通りで、ご報告することは今のところないですね、はい。

加藤： ToDo としては、先ほどの国内準備会合のご案内をし、次回、オスロ以降、勉強会のテーマについて検討するという事かなと思います。これ以外に何か今日ご報告なり議論いただきたいという事はございませんでしょうか？特にございませんか。今チャットに前村さんから何か書いていただいています

前村： 失礼しました。いわゆる誤爆です。ごめんなさい。

加藤： わかりました。それではあと、次回の開催日なんですけども、私もコメントを書かせていただいたんですが、今後のスケジュールとして、6月の23日から27日の期間、ノルウェーのオスロ郊外でIGFの大会議があると。実はその2週間後に今度はジュネーブで7月7日から11日までWSIS+20の会合があると。7月7日から11日の会合は、これまでの会合と違ってジュネーブの空港のすぐそばのPalexpoという国際展示場で開かれます。大きな展示場でかなり大規模にやる、ある意味IGFの会議と同じように、いろんな人がいろんなセッションを発言するというようなそういう企画だというふうに聞いておまして、中には参加される方もあるかもしれないというふうに予想しております。ということで、次回の会合が、IGFの前であれば6月16日の月曜日でもいいんですけども、その後ということであれば、7月7日でなくて14日の方がいいかなというご意見もありますけれども、次回の会合、皆さんいかがでしょうかね。6月16日にやった方がいいという方、ご意見の方いらっしゃいますか。いかがでしょうか？もし、7月7日とか14日かということであれば、次回の勉強会のテーマも決まるかなという気もしますけれども、その辺も含めていかがでしょうか？申し上げた6月16日、7月7日、7月14日、この辺で何か別の会議と当たっている、7月7日はさっきのWSIS+20とかぶるんですけども、何かそういう方で避けた方がいいとかいう情報お持ちの方いらっしゃいますか？特にないですか。いきなり振ってあれですけど、前村さんとか高松さんとか何かその辺よくIGFにいらしたりなんかされてるんですけど、ご意見ございますか。

前村： 7月、そうですね、その辺で私の方は関知しているイベントって特にありませんで、大丈夫だなと思いつつ聞いていて。

加藤： はい、6月16日にやった方がいいということであれば、7月14日にさせていただいてもいいかなという気もするんですよ。というのは、来週またこのグループで集まりますし。事前会合ということで、特にオスロ前に情報交換が最後必要であれば6月16日に会合を行わなくても、7月に帰ってきてからでもいいのかなという、そういう気もするんですけども、皆さんそれでよろしいですか。もしそれであれば、一番無難なのは7月14日の月曜日ということになると思うんですけども、よろしいでしょうか。もし何か緊急に集まる必要があればあれですし、オスロの会議に準備のために何か情報が欲しいということであれば、メールでいつものIGFのメーリングリストに書いていただければ、誰かお答えなり、別途コンタクトさせていただくことができると思います。

それではこの会議では、次は7月14日の月曜日、活発化チーム会議63回目をやるということで、一応今日は決めさせていただければと思います。

これ以外に何か今日お話いただきたいことございますか。もしなければ、どうでしょうか山崎さん、6時から勉強会ってということで、一旦休憩時間をおいた方がよろしいですね。

山崎：そうですね。多分、6時から入られる方も、勉強会をターゲットで6時直前に入る方もいらっしゃいますよね。

山崎：前倒ししてしまうと、始まってしまうのが少し早くなりますよね。

加藤：そう思いますね。活発化（チーム）会議の通常の連絡会議はこれで一旦お開きにさせていただいて、このまま残っていただいて6時から聞けますし、一旦切って、また入っていただいても結構ですが、今日の活発化（チーム）会議の連絡会議はこれで終了ということにさせていただきたいと思います。どうも皆さんありがとうございました。後ほどまたよろしく願いいたします。失礼します。